

薬連ハイライト

今年度初の全国会議

9月24日、ホテルイースト21において、令和2年度臨時評議員会が開催された。コロナウイルスの影響で、中止あるいは延期される全国会議が続く中、書面評決が可能ではあったが実参加の評議員もあり、マスクの着用、手指消毒の徹底、入場時の検温に加え、会場の換気対策を図っての開催となった。また、書面評決の評議員に対してYouTubeライブ配信が行われた。

山本会長挨拶、薬剤師国会議員（松本純衆議院議員、藤井もとゆき参議院議員、とかしきなおみ衆議院議員、逢坂誠二衆議院議員、本田顕子参議院議員）挨拶に続き、議長・副議長選挙が行われ、議長には北海道の金安評議員、副議長には静岡県明石評議員が選出された。

石井副会長から直近の政治課題の説明の後、報告第1号令和元年度会務並びに事業報告、荻野副会長



から議案第1号として令和元年度収入支出決算報告、続いて高祖監事より会計監査報告が行われ、採決したところ賛成多数で原案どおり可決承認された。

休憩後、冒頭に神谷まさゆき副会長より挨拶があり、岩本幹事長から神谷まさゆき中央後援会活動の進捗状況と今後についての説明がなされ、協議が行われた。

最後に鳥海副会長から閉会の挨拶があり、臨時評議員会の幕が閉じられた。

もとゆき便り

令和3年度予算概算要求

情報監視審査会会長
参議院議員・薬剤師
藤井もとゆき



令和3年度予算概算要求は9月末に各省庁から提出されました。一般会計の要求・要望総額は105兆円を超えていますが、今回は新型コロナウイルス感染症の影響により概算要求段階では予算額を決めず、感染症対応等の緊急経費については別途要望するとの財務省方針に従い、予算額を定めない事項要求が各省とも多く含まれています。来年度予算編成に向けて、政府内の調整に関心が寄せられます。

厚生労働省の一般会計要求総額は、前年度当初予算に比べ34億円増の32兆9895億円、このうち医療・介護・年金等の社会保障に係わる経費は、前年度と同額の30兆8562億円となっています。この他、新型コロナウイルスのワクチン・治療薬の研究開発支援、PCR検査・抗原検査等の戦略的・計画的な実施体制の構築等、ウィズ・ポストコロナ時代を踏まえた事業費の多くを事項要求しています。

薬剤師・薬局の関連では、電子処方箋の令和4年度運用開始に向けて、システム構築とともに医療機関・薬局等への周知を図る新規事業費として、38億円を要求しています。また、薬剤師の資質向上に向けた研修に係わる検討事業も新規要求しています。

薬剤師・薬局に係わる事業費をはじめ、感染症対策、社会保障関連の予算確保に努めて参りたいと思います。

オレンジ日記

目指す社会像

自民党厚生労働部会副会長
参議院議員・薬剤師
本田 顕子



9月16日（水）、菅義偉内閣が発足しました。16日の記者会見で菅首相は「目指す社会像、それは自助・共助・公助そして絆だ」と発言されました。この言葉は、高齢者が地域の実情に応じて、自立した日常生活を営むことができる体制である「地域包括ケアシステム」においても使われています。

平成25年3月の地域包括ケア研究会の報告書では「自助・互助・共助・公助」と表現していますが「絆」は「互助」に当たるものと私は考えています。つまり、人と人の結びつき、支え合いや助け合いということであって、住民組織の活動やボランティア活動であると報告書で説明されています。「共助」と共通点がありますが、共助は医療保険・介護保険制度に基づくサービスを指しており、費用負担が制度的に裏付けられているのに対して、費用負担の裏付けのない、いわゆるボランティア活動が「互助」であり「絆」なのだと思っています。国民皆保険制度を堅持することは当然ではありますが、少子高齢化が益々進んでいる状況の中で、自助や互助・絆の果たす役割が一層大きくなるものと思われま。

新たな体制の下で政務、党務に力一杯取り組むことを改めて決意いたしました。